

市民憲章運動推進第40回全国大会

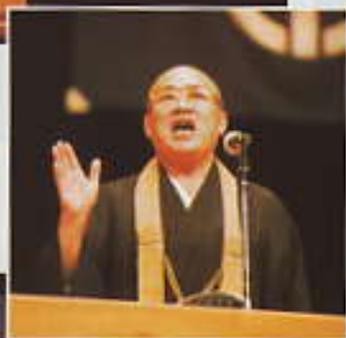


藍より青い吉野川—おせったいの心 人づくり まちづくり—
さらに市民憲章運動をひろげよう—

市民憲章運動推進 第40回全国大会

徳島県徳島市

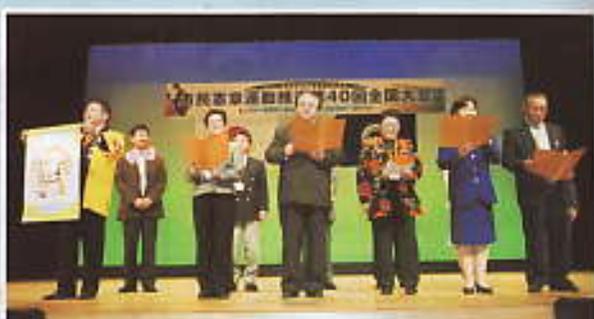




「藍より青い吉野川―おせっかいの心 人づくり まちづくり―」さらに市民憲章運動をひろげよう―」を大会テーマにした市民憲章運動推進第四〇回全国大会が、昨年十一月十八日から二十日の三日間にわたり、徳島県徳島市文化センターなどを会場として開催された。北は北海道釧路市から、南は沖縄県石垣市までの市民憲章運動関係者や地元市民、総勢七百人が参加した。

開会式では、「事件の多い中で、人を思いやる心を改めて考え直す、そして人の役に立つことをなお頑張っていたら、そういう思いを込めてこの大会を開催した」と喜多宏思全国市民憲章運動全国大会会長が、原秀樹徳島市長は「市民とともに街づくりをすすめているなか、四〇回という節目の全国大会を徳島市で開催するのは、大きな刺激となり、情報交換の場、切磋琢磨の場としてこの大会を活用したい。そしてみなさまの熱い思いを、全国に発信して欲しい」とそれぞれあいさつした。開会行事に続き、地元徳島市で人形浄瑠璃を継承する川内北小学校と平成座による「人形浄瑠璃」と海外公演もある「徳島少年少女合唱団」が登場し、参加者の喝采を浴びた。

事例発表では、大塚製薬株式会社の徳島本部長 池田さんが、二〇〇三年に



ISO14001の認証を得ての生産現場や社会に向けての環境社会貢献活動を報告した。もう一つの事例発表者の特定非営利活動法人新町川を守る会の中村秀雄さんは、「できる人が、できる時に、できることを」をモットーに進めている活動を報告した。同会は、平成二年に発足。市内の中心部を流れ、かつては、市民に親しまれていた新町川が、流域の工場や家庭から排水やごみが捨てられて、どぶ川と化していた。そんななか、「市民の汚した川は市民の手できれいに再生しよう」とグループを結成、清掃活動とともに、「遊覧船の運航」「寒中水泳大会」「川からサンタがやって来る」「屋形船と邦楽の夕べ」などの数々のイベントをするなかで、市民に親しまれる川を呼び戻す活動を報告した。

また、基調講演は、徳島市の願成寺の住職で、社会福祉法人の常務理事を務める、大西智城さんが「もっと楽に生きる」という演題で基調講演を行なった。

最後に、「市民憲章運動を通じて、地球環境を守り、人を思いやる心を大切にする、やさしい人づくりまちづくりをめざそう」などの大会宣言を採択して終了した。

次年度の全国大会は、岩手県花巻市で開催されることが、同時に開催された総会で決定した。